

すくすく育て  
芦屋っ子  
NO.170



▷問い合わせ 社会教育係  
(☎223局3546)

## 絵本で家読<sup>うちよみ</sup>をしてみませんか

近年では、さまざまな情報メディアの発達などの影響で、子どもの「読書離れ」が懸念されています。読書をすることは、言葉を知るだけでなく、本から人の思いや気持ち、社会のルールなどを学んだり、子どもの想像力を育んだりすることにもつながるなど、子どもの成長にとっても良い影響を与えます。また、育児の方法の一つに本の読み聞かせがあります。読み聞かせは、子どもの心を豊かにすると同時に、子どもと保護者の心をつなぐ大切なふれあいの場にもなります。皆さんは「家読<sup>うちよみ</sup>」を知っていますか。家読とは、家族で読書の習慣を共有することです。家読には決まったやり方はありません。家族皆で好きな本を読んで、読んだ本のことを話したり、同じ本を皆で読んで楽しんだりすることです。



また読み聞かせも家読の一つです。同じ習慣を家庭の中で共有することにより、家族のコミュニケーションのきっかけづくりになります。「読書」と聞くと、つい字が多い本を読まないといけないと思い、苦手意識がある人もいるかもしれませんが、家読でもっともおすすめなのは「絵本」なのです。「絵本」は短時間で読むことができ、絵の印象や物語の感想など、語り合う話題に多様性があるのに加え、小さな子どもから世代を問わず親しむことができるからです。なにより、家読で大切なことは、子どもと一緒に読書を楽しむこと。それぞれの家庭で、本の読み聞かせや、一緒に図書館に行ってみるなど方法はさまざまです。

一週間に一度でも、就寝5分前のわずかな時間でも、もしくは夕食の後にでも子どもと一緒に家読の機会を作ってみませんか。各家庭の生活に合った方法で、読書を楽しむ環境を作ること、子どもの思わぬ一面を知るとともに家族の仲がぐっと深まることでしょう。

**特別支援教育便り**

▽問い合わせ 学校教育係  
(☎223局3547)

## 自立を考えた学びの場の選択を

中学校の子どもたちは、卒業までに何らかの試験を受け、進路選択を迫られることとなります。

平成28年4月1日に「障害者差別解消法」が施行され、障がいのある子どもたちが受験する際には、負担が重すぎない範囲で配慮することが国公立の学校に義務付けられました（私立学校の場合は努力義務となっています）。

- 受験時の合理的配慮の対応事例には次のようなものがあげられます。
- ASD（自閉症スペクトラム・アスペルガーなど）不安感を軽減できるような会場の下見を許可する。
- ADHD（注意欠如多動症）集中しやすくするため別室受験を行う。
- LD（学習障害・ディスレクシア）試験時間の延長や問題用紙の拡大、問題文を読み上げる対応をする、など。

受験時にこのような合理的配慮を依頼するには、医師の診断書や個別の教育支援計画、これまで学

校内で行ってきた支援の実績などの配慮の必要性を示した申請書を提出する必要があります。対応できる範囲は自治体や学校によって異なるため、本人・保護者・在籍校・志望校の四者ですり合わせが必要

です。福岡県ではLDへの対応として、福岡県ではLDへの対応として、のふりがなを付けることなどはまだ行われておらず、さらなる対応が求められています。公立高校で通級指導が始まるなど、発達障がいのある生徒へのサポート体制を整える高校が増えています。

大切なのは、本人の意思を尊重し、保護者の思いも含め家庭でしっかりと話し合うことです。障がいを抱える子どもたちは、どうしても社会の中で生活のしづらさを感じることがあります。自分の特性としっかりと向き合って自立することが大切です。何ができて、何が苦手なのか、自分の能力を伸ばせる学びの場を選んでください。長いスパンで将来を見据えてほしいと思います。

不安なことへの相談や情報提供などが必要であれば、各学校の特別支援教育コーディネーターや教育委員会に相談してください。芦屋中学校特別支援教育コーディネーター

鱈村 礼子

## 芦屋中学校

### 地域の皆さんとじっくり対話（しゃべり場）・芦屋釜の魅力と偉大さを実感！

9月14日、3年生は「しゃべり場」を行いました。地域の大人の皆さんと生徒が「対話」をする取り組みです。生徒からは「どの方も応援してくださってうれしかった」「大人と話すことにより将来なりたいたいのが見えてきた」、参加した皆さんからは「親のことを大切に思っている子が多く、うれしく思った」「子どもたちは素直で明るく、とても楽しい時間になった」などの感想があり、充実した時間となりました。



同日、1・2年生は芦屋釜講演会で、芦屋釜の特徴や歴史を学びました。鑄物師の八木さんの話では、「何度失敗してもいいから最高の一個を作れ」という芦

屋町の姿勢を知り、感動もあり同時に郷土愛が芽生えた時間となりました。

### 令和初！前人未踏の文化祭！

10月12日、『挑戦・創造・発展』～みんなで創る前人未踏の文化祭』をテーマに文化祭が行われました。1年生のモザイクアートは、日本で開催されたラグビーワールドカップのチケットのイラストをデザインしました。続いて合唱コンクール、ダンス、演劇、個人発表、吹奏楽部の演奏などが行われました。校内では、さまざまな展示発表や茶道同好会によるお茶会が行われました。生徒たちは、個性豊かな精一杯のパフォーマンスを披露することができました。（教頭 石松誠）



## 学校での出来事を先生たちがお届け！

## 山鹿小学校

### 生き物ランド（ビオトープ）が再生中です

本校には山鹿学童クラブ付近に平成19年度に造成した「生き物ランド」があります。

児童が日常的に安心して自然や環境を学べる学習環境づくりを目指し、団体からの助成を受けながら、当時の本校関係者や児童で力を合わせてやっと完成した場所です。理科の学習でも扱うトンボをはじめとする小動物がたくさん生息するようになり、子どもたちの学びや遊びの場・地域の人の憩いの場となりました。

しかしながら、この「生き物ランド」が10年以上の歳月でかなり傷みました。今年の夏休み、造成当時の本校PTA会長であった吉岡学さんの呼びかけに応じ、当時の役員、教育委員会、地域や現在の保護者の皆さんの協力を得て、重機を入れながら補修作業を行いました。まずは伸びすぎた木々の枝の伐採とそれをチップ化し、敷地にばらまく作業を行い、11月には新たに数十本の苗木を植えました。

来年には池部分の防水シートも交換し、本格的

に生き物ランドが再生する予定です。本校規模のビオトープを持つ学校は、滅多にないようです。しかも業者任せではなく、本校に関係する多くの皆さんの夢が原動力となり、力を合わせて作り上げた場所というところに値打ちがあると思います。

今後は、理科・生活科・総合的な学習の時間などで活用していくと同時に、ビオトープを定期的にメンテナンスする子どもの委員会を立ち上げていく予定です。

（教頭 野口浩）



△手入れ前のビオトープ



△手入れ後のビオトープ